



Republic of
Ghana
05

ガーナの子どもたちって?その生活って?

～安全な水を得ることの大変さ～

黒明 堅一郎

倉敷市立玉島北中学校

- 実践教科等/道徳、学活、全校集会
- 対象学年/中学1年生(2時間は全校集会で全校生徒に)
- 時間数/6時間+α
- 対象人数/211名(全校559名)

ココが
興味
深い!

ガーナの中学生からの聞き取り結果を導入で活用したことは、日本の生徒が自分達と比較ができて素晴らしい。

❖カリキュラム

- 【実践の目的】
- ガーナについて学ぶことで、自分たちとはちがう生活や文化への興味・関心を持つ。
 - ガーナの子どもたちの通う学校や、生活について学習し、開発途上国の実態を知る。
 - 安全な水を得ることが、いかに大変かを考える。
 - ガーナで働く日本人の紹介やその考え方を知り、自分たちが今できることを考える。

❖授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	リヤカーは海を越えて【道徳】 ガーナの生活に少し触れる	読み物教材から、アフリカの生活(水問題)に触れる 国際理解の動機付けの授業	・道徳の本 ・ワークシート ・リヤカーの写真
2 3	ガーナの子どもたちについて【全校集会】 ガーナへの興味・関心を持たせる ガーナの国旗やケンテを見せ、楽しくガーナ について学ぶ	ガーナの学校や、ある村の子どもたちの生活、そし て子どもたちの夢などを学習する	・コンピュータ ・プレゼンテーションソフト ・国旗、服、マフラー
4	安全な水を得ることの大変さ【学活】 全校集会で学んだガーナの水事情につい て、くわしく学習する	20kgの荷物を頭に寄せ、歩いてみたりする	・コンピュータ ・プレゼンテーションソフト ・ワークシート(1時限目で使った ワークシートの続き)
5	「100円玉に愛を込めて」というテレビ番組 を見て【学年集会】 アフリカの水事情について学ぶ	ケニアのある村のことをビデオで見る	・テレビ ・ビデオ ・ワークシート
6	ガーナで働く日本人【学年集会】	ガーナで働く日本人として、青年海外協力隊の隊 員4名について学ぶ(シニア海外ボランティアを含む)	・コンピュータ ・プレゼンテーションソフト
補足 ①	教室や教科コーナーでの掲示物コーナ ーづくり	自由に学べるスペースとして、ガーナコーナーを 作る いろいろな写真にキャプチャーをつけて貼ったり、 本やケンテなどを机に置いたりする	・ガーナで買った本 ・ポスター、地図 ・毎日新聞の記事 ・服やマフラー、筆箱など
補足 ②	倉敷市中学校英語祭への掲示物・ガーナ の本や服など出品	倉敷市のほかの中学校の生徒にも学んでほしいと いうことで、上記のようなガーナコーナーを作り、 興味を持ったものについて、説明する	・ガーナで買った本 ・ポスター、地図 ・毎日新聞の記事 ・服やマフラー、筆箱など
補足 ③	玉島ケーブルテレビでの授業紹介の放送	倉敷市玉島に放映される地元のテレビであるが、ガー ナのことを少し触れてもらおうと協力を依頼し、放 送する	

❖授業の詳細

1時 制限目 リヤカーは海を越えて

この授業は国際理解への動機付けのものである。この授業の内容は、リヤカーをアフリカで生産し人々の生活に役立てようと尽力する日本技術者村松さんと、日本にやってきたタンザニアの研修生アベベさんとの交流を通して国際理解を考える資料である。真の国際貢献について理解を深め、国際的な視野に立って人類の

幸福に貢献しようとする態度を育成するというねらいがある。

まず、タンザニアやリヤカーについて聞き、学習意欲を高める。そして資料を読み、水汲みをする子どもたちの実態を知り、アベベさんや村松さんの考えに共感する。最後に、自分では何ができるかを考えていくものである。最後に教師の話として、ガーナで体験してきたことを話す。

生徒の感想より

こんな(日本の)生活も当たり前ではないと改めて感じた。自分たち(タンザニアの人)で作るほうが意味が深いと思った。

普段何気なく飲んでいる水だけど、発展途上国の子どもたちはすごく苦労しているから、もっと大切に扱わなきゃいけないと思った。

ものを送るだけではいけない。

2.3 時限目 ガーナの子どもたちについて

全校集会での発表。まずプレゼンテーションソフトから、3枚の写真(写真①②③)を順番に出し、何の写真かを考えさせる。1枚の写真に3分程度考えさせ、生徒に発表してもらう。それには学校に行けない子どもたちが写っている。そして、プレゼンテーションソフトでガーナの学校、村、そしてガーナの子どもたちの夢について紹介する。



写真①



写真②



写真③

またそれぞれの紹介するものでは、クイズを通して自分たちの考えを膨らませ、興味を高める。伝えるだけでなく自分たちの生活や夢を考えさせ、それと比較させることで驚きも大きかったし、印象も強くなった。

生徒の感想より

ガーナの人たちが住んでいるところは私たちから見たら、とっても不便な場所で大変なところなんだなあと思いました。でもガーナの人たちは写真の中で笑っていてとても幸せそうでした。私はそのことを考えると、本当の幸せってなんだろうと思いました。

学校に行きたくても行けない子供たちを見てかわいそうだなあと思ったけど、みんな笑顔だったのでびっくりしました。

すごくかわいそうに思ったけど、本人は笑っているなんて、なんだかいつも暗い感じなのかと思っていたので驚きました。

4 時限目 安全な水を得ることの大変さ

ガーナの水事情を話し、水を飲むためにダムと呼ばれるため池に行ったり、水を飲むことで病気になったり、寄生虫(ギニアワーム)の被害にあったりすること(写真④)を生徒に伝えた。実際に飲む水や足からギニアワームが出ている写真は、生徒にとって衝撃的なものであった。また20kgの重さのナップサックを担がせたり、頭にさせたりして、実際に歩いた。



写真④

生徒の感想より

必要不可欠なもの(水)を飲み、それで病気になってしまうのは、とても残酷なことだと思いました。

日本人はプールやお風呂に水やお湯をためて遊んだり、水道の水を出しっぱなしにしていたりするのをガーナの人たちはどのような目で見ると、とても気になった。

水が飲めることは当たり前じゃないんだなと思いました。

5 時限目 「100円玉に愛を込めて」というテレビ番組を見て

ケニアのある村に住んでいる少女ヤッシーの話。不衛生な水しか飲めない少女に、なんとか100円でなにかしたいという芸能人が、日本人技術者のもとケニア人と一緒に井戸を掘り、少女にきれいな水を飲んでもらうという内容。

ここで次の授業につながるよう、井戸作りのことも少し触れる。日本人技術者がケニアの人に技術を伝えながら、井戸掘りをしたことを強調する。そして、そのように技術支援や人づくりをすすんでいる人たちに少し触れ、次回の授業の予告とする。

6 時限目 ガーナで働く日本人

日本人として何ができるかということのをねらいに、まず日本人としてできることを考える。募金や物資援助(文房具、衣装など)のほか、技術援助と答える生徒も多かった。また技術援助するためには、どのようにすればいいのかということで青年海外協力隊の存在を伝え、ガーナで働いている日本人として4人の協力隊員を紹介した(写真⑤)。その後、現在ガーナで働く隊員の数や世界中で働く隊員の数などを紹介した。さまざまな分野で活躍する姿や、考え方をすることで日本人として何ができるかを考えるきっかけとなった。

田中 紀子
報告書①

古野 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

重森 美由姫
報告書④

黒明 堅一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 泰三
報告書⑨

安部 一実
報告書⑩

参考資料



写真⑤

生徒の感想より

日本に世界中で働く協力隊の人数がこんなにいるとは、びっくりしました。

ぼくたちもできることは、たくさんしていきたいです。

私は協力隊という団体をはじめて知りました。

たくさんの技術がいろんな人に伝わればと思います。

■補足①②③

多くの情報を、どのように有効に使うか、またどれだけたくさんの人に伝えるかと考えた結果、自らガーナのことを学習できるスペースを作った。まず学校に、ガーナコーナーを作り、多くの掲示物や写真そして、教科書やケンテなどを置いた(写真⑥⑦)。

◆成果と課題

〈成果〉

初め、生徒は開発途上国のことを学ぶと、自分たちの生活と比較し、貧しいところだけを見て、かわいそうだという固定観念を持つ。生活の豊かさが、そのまま心の豊かさになっているのではないかと思う。しかし今回の授業では、ガーナ人の笑顔を見て、本当の幸せとは何かという感想を持った生徒は多かった。アフリカに住んでいる人の心の豊かさを感じることができたのではないかと思う。

自分たちとはちがう生活や文化を学習することで、異文化への興味・関心を持つようになった。国際理解の授業後、特別番組や世界ウルルン滞在記などに興味を持った生徒もいた。また、「先生、私もいろんな国に行ってみたい」「もしどこでもドアがあったら、先生の行ったガーナに行ってみよう」という声が聞けたのは心底うれしかった。普段使っている水の大切さを改めて知ったと同時に、次のステップとして自分たちは今何ができるかを考えることができた。

〈課題〉

・水というテーマで水の重要性を伝えようとしたが、どこまで具体的かつ細かく伝えればいいのか、どの情報を厳選して伝えるかなど、非常に迷った。もう少し自分が伝えたいことをしっかりと見つめ、授業作りをすればよかったと思う。

ただ置くだけでは単なる紹介で終わってしまうので、一つひとつにキャプチャー(説明文)をつけた。また休み時間や昼休みなどは、ほとんどガーナコーナーに行き、生徒たちと気軽にガーナのことに語ることができた。次に、この作ったものを多くの生徒や先生に見てもらいたいということで、倉敷市中学校英語祭に出品した。多くの生徒が足をとめ、見ている姿が印象的であった。

最後に、地元のテレビ局の玉島ケーブルに協力を依頼し、6時限目の国際理解の授業の一部を放送してもらい、ガーナについても少し触れてもらった。地域の人もあるきっかけになってくれたのではないだろうか。



写真⑥



写真⑦

- ・ビデオもたくさん録画して、編集までしてもらったのに、コンピュータに疎く、使うことができなかった。これが一番の後悔である。写真だけでなく、実際に行った時のビデオを使うともっと生徒は興味を持って学習できたのではないかと思う。
- ・もっと活動を取り入れるとよかった。伝えることが多く、生徒に考えさせたり、活動させたりというのが少なかった。

〈感想〉

今年度、本格的に国際理解教育(開発教育)を取り組んだが、こんなに生徒の目が真剣になるものなんだなあとうれしくなった。その一方で、考えれば考えるほど、どのように生徒に伝えればよいか、悩んだ。自分にあるものをただ伝えるのではなく、わかりやすく、また生徒の心に残り、次につながるものをつくろうと思うと本当に難しかった。今後も研修を重ね、もっと生徒に大事かつ多くのことを伝えていきたいと思う。今回のガーナ研修やJICA中国主催の研修は本当に私にとって、かけがえのない経験となった。この経験を次に生かしたい。来年から2年間、青年海外協力隊員として、ケニアで多くの人たちに出会い、接して、いろいろな経験をしてくる。それをまた帰ってきて多くの人に伝えていきたい。

ガーナで働く日本人について

日本人として何が出来るか。

日本人としてできることは？

- 募金
- 物資援助
(文房具、衣類など)
- _____
など

技術援助するためには？

- 日本外務省職員
- 国連職員
- NGO (Non Governmental Organization)
非政府組織
- _____
_____ など

どのような、職業の種類(職種)があるんだろう。

協力隊員の名前	職種	メモ
()さん		
()さん		
()さん		
()さん		

ガーナで働く協力隊の数は？ _____

世界中で働く協力隊の数は？ _____

()組 ()番 名前()